

## 新入職員のご紹介

●2026年4月以降に入職した方  
派遣での職員も含まれます

- ★リハビリサポートすいれん  
西村 澄子さん (サポート職)
- ★リハビリサポートゆうらいふ  
大津 佐智子さん (看護師)
- ★小規模/グループホーム 花梨  
尾上 裕子さん (介護職)
- ★リハビリサポートゆうらいふ  
中武 宏美さん (介護職)
- ★リハビリサポートすいれん  
日當 敦子さん (介護職)
- ★小規模/グループホーム 花梨  
長崎 加奈子さん (介護職)
- ★リハビリサポートすいれん  
中山 彩子さん (介護職)
- ★リハビリサポートゆうらいふ  
田中 康史さん (サポート職)
- ★小規模/グループホーム 花梨  
今井 尚子さん (看護師)
- ★ゆうらいふナースステーション  
栗駒 悦子さん (訪問看護師)
- ★保育所かりん  
小寺 優真さん (保育士)

## ゆうらいふ職員のコラムコーナー プロフェッショナル リレーコラム

Vol.32  
セラピスト  
やまもと さほ  
山本 沙歩

ゆうらいふナースステーションの作業療法士として働き出して、今年で6年目になります。以前は施設に勤務し、入所者様やデイケアの皆様のリハビリを担当していましたが、当時は毎日バタバタと忙しい日々を過ごしていましたが、訪問看護に転職してからは、1対1で利用者様のペースに合わせて、じっくりお話を聞きながらリハビリが行えています。普段の関わりでは、いつも笑顔を決やらず、利用者様が楽しく前向きにリハビリに取り組んでいただけるよう心がけています。プライベートでは、年に10回ほど家族4人でキャンプに出かけています。大自然の中で子どもたちとゆっくり過ごす時間が、今の私の癒やしであり楽しみです。



他職種と連携し「その人らしい生活」を送れるようサポート  
バトンを渡した人：江藤愛美さん (看護師) 2026年4月号登場

# ゆうらいふ通信

2026年7月発行



気持ち良い初夏の風を感じながら  
収穫を楽しんだり  
花を生けたり

素敵な時間を  
過ごしています

## 職員研究発表表彰

- ゆうらいふ賞  
特定技能外国人職員との共生に向けた介護現場の挑戦  
～“労働力”から“共に未来を創る仲間”へ1年間の軌跡と組織の進化～  
発表者：花梨 看護師 今村 千沙智
- 優秀賞  
“男性3割時代”リハビリサポートゆうらいふのアップデート  
発表者：リハビリサポートゆうらいふ 介護福祉士 橋本 佐緒里
- ステップアップ賞  
「入浴ニーズ」に応える ～自立支援と環境の新たな展開～  
発表者：リハビリサポートすいれん 介護福祉士 山口 由  
保育に貪欲になれ！  
発表者：保育所かりん 保育士 村上 奈美子
- 理事長賞  
困難事例における多職種連携と組織的対応  
発表者：ゆうらいふ居宅介護支援事業所 ケアマネジャー 西村 佳代



特定非営利活動法人ゆうらいふ  
代表  
守山市立田町 1231-4  
TEL : 077-585-4070  
【Web】 <http://www.youlife.ne.jp>  
【メール】 [info@youlife.ne.jp](mailto:info@youlife.ne.jp)

- ゆうらいふ ● デイサービス ● 総合事業 ● いきいき未来戦略部 (事務局)  
〒524-0214 守山市立田町 1231-4 ☎ 077-585-4070
- すいれん ● グループホーム ● デイサービス ● 保育所  
〒524-0001 守山市川田町 1541-4 ☎ 077-584-2772
- 花梨 ● 小規模多機能型居宅介護事業所 ● グループホーム ● 事業所内保育所 (認可)  
〒524-0214 守山市立田町 4135-1 ☎ 077-599-0531
- 憩い ● 居宅支援事業所 ● 小規模多機能型居宅介護事業所  
● ナースステーション ● ヘルパーステーション ● 定期巡回・随時訪問型訪問介護看護  
〒524-0014 守山市石田町 735-3 ☎ 077-584-2300

## トピックス



- 理事長 退任のご挨拶
- 理事長 就任のご挨拶
- 2026年定期総会を開催しました
- 職員リレーコラム「プロフェッショナル」

## 理事長 退任のご挨拶

相談役 山田 亘宏

この6月30日付で、理事長を退任いたしました。

今年の9月1日には満年齢で80歳を迎えることとなりますが、守山市長を2期8年務めさせて頂き、その後ゆうらいふにて、以前の2年間の任期に加え、平成23年4月に顧問として戻って以降も再び理事長を務めてまいりました。通算で15年間を理事長として務め、人生の最後の仕事を無事に終わらせることは無上の喜びです。

これはひとえにゆうらいふを愛し、利用して頂いた利用者さん、これを支えてくれた職員の皆さん、更には地域の皆さんのお力添えがあったことと感謝申し上げます。

今後もしばらくの間は、「相談役」という名称を頂戴し、利用者さんや職員の支え役、縁の下の力持ちとして務めて参る所存です。新体制となるゆうらいふと共に、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。退任のご挨拶と致します。本当に長い間、ありがとうございました。

なお、後任の則本さんは京都大学を卒業後、京都市役所や日本赤十字社京都府支部に勤務された後、守山市社会福祉協議会の事務局長としての役席を務めて頂いた方です。駅近くのマンションに早くから住居を構えられ、自治会長も数回務めて頂き、守山のことは十分にご存じの方です。

ゆうらいふの理念を一層深化させ、高齢者のみならず「生活支援の全般」にわたり活躍して頂ける方です。どうぞよろしく申し上げます。



## 理事長 就任のご挨拶

理事長 則本 和弘

去る5月26日、特定非営利活動法人ゆうらいふ理事会において、理事長に選定されました 則本和弘 と申します。私はこれまで5年間、理事・監事としてゆうらいふの活動に携わってまいりましたが、その間、皆さまから賜りました温かいご理解とご支援に、心より御礼申し上げます。このたび理事長に就任するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ゆうらいふは、介護保険制度が始まる前年(1999年)から事業を開始して以来、今日まで四半世紀が過ぎ、ご利用者さま、ご家族の皆さま、そして地域の皆さまから信頼を得ながら着実に成長してまいりました。私も役員の一員として、ゆうらいふの理念に基づく日々の活動と職員の皆さんの頑張る姿を見させていただき、ゆうらいふが今後さらに飛躍していくためにはどのようなことが求められるか、また、皆さまからのさらなる信頼を得るにはどのような活動が必要か等々を考えながら見守ってまいりました。

### ゆうらいふの理念である「サービス提供の3原則」

- 人としての尊厳の保障 「自己選択、自己決定、自己責任」
- 現存能力の活用＝自立(自律)支援
- 生活の継続保持



そして、この理念の実践に当たっては、「3歩先を見て1歩先を実践する」ことを目標とし常に前に向かって進みます。また、住み慣れた地域で、その人らしく最期まで安心して暮らせるよう在宅看取り支援を進めるとともに、保育事業に係る子育て支援も含めて、誰もが地域社会の一員として共に生きることができる地域共生社会づくりに取り組んでいます。

私は、これまで培ってきた行政や地域福祉事業等の知識と経験、また、地域活動の実体験をもとに、高齢化が急速に進む状況の中で、しっかりとご利用者さま、ご家族の皆さま、そして地域の皆さまの一層のご期待に応えられるよう、新しい発想も柔軟に取り入れながら、皆さまと共に、希望ある未来を築いていけることを心より願っております。今後とも、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 2026年定期総会を開催しました

6月14日(日)琵琶湖マリオットホテル



活発な質疑応答の様子



特定技能外国人職員は5人になりました  
うち1人は介護福祉士国家試験に合格し今後の活躍が期待されます

2025年度は「住み慣れた我が家で最期の時まで！」の理念のもと、利用者延数(92,333人)、純売上高(8億4421万円)ともに過去最高を記録しました。ICT・AIの活用や外国人材の採用等による業務効率化を進める一方、全職員へのACP研修、入浴支援の強化、医療・介護の連携によるサービス質の向上を実践しました。

2026年度は画一的なケアを脱し、利用者の「できること」を増やす自立支援・個別ケアに注力します。生産性向上への取り組みをさらに加速させるとともに、職員一人ひとりのスキルアップも目指し、処遇改善加算を原資に最大6.5%の待遇向上を実施します。

## 特別講演会

厚生労働省 大臣官房総務課広報室 広報室長 綾 賢治 氏

講演会では、「医療・介護を取り巻く環境の変化と今後の方向性」が示されました。現在、高齢者数が変化する局面は地域ごとに異なり、今後の制度改正では「全国一律」から人口構造の変化に応じた「地域類型別」の設計へとシフトする議論が進んでいます。その中で守山市は「大都市部」の区分に該当し、2040年に向けて今後も介護ニーズが増加し続ける地域であると指摘されました。

また「現役世代の急減」に伴う深刻な人手不足への対応を喫緊の課題に挙げ ICT やセンサーといったテクノロジーの活用による業務効率化や、サービスの生産性・質の向上が全力で取り組むべき方向性として挙げられました。私たちサービス事業所としては、この地域特性と時代の要請をしっかりと捉え、今後さらに高まる地域のニーズに確実に応えられるよう、質の高いサービス提供体制を整えていく必要性を強く実感する大変有意義な機会となりました。

